



「今日も元気で」の成り立ち

婦人部愛唱歌「今日も元気で」は、1968年(昭和43年)8月、旧日大講堂で開催された婦人部の新出発を記念する幹部会の席上、発表された。

婦人部の中心メンバーと、62年(昭和37年)に結成された白ゆり合唱団の代表が協力して、歌詞の制作が進められた。1番では、まぶしいほどの太陽の光が全身を包み、そのエネルギーと勢いを受けて一日をスタートする心意気を、2番では、リズムカルに自転車のペダルを踏み活動に走る姿を表わしている。そして、3番には、活動を終え、見上げた時に見る星の輝き、きらめき、胸に湧いてくる希望と明日への決意が込められている。

婦人部の活動をさながら絵にしたような歌詞には、朝、昼、晩と家事や育児の合間をぬって、太陽のように明るく朗らかに学会活動に励む、婦人部の率直な思いがそのままつづられた。そして、曲全体にあふれる躍動感と、軽快で情熱的なメロディーに、広宣流布にかける婦人部の真剣な思いと、人生の師匠とともに前進する喜びが表現された。

「今日も元気で」が発表された婦人部幹部会には、池田名誉会長(当時会長)が出席。「大聖人の仏法をそのまま実践していけば、偉大な福運を積むことができる」「21世紀を目指して、若々しく生きていこう」と婦人部の新出発を心から祝福した。

白ゆり合唱団が、明るく、躍動感あふれる歌声で「今日も元気で」を披露すると、池田会長も手拍子を送り、一緒に歌を口ずさんだ。そして「いい歌だ、よし、私が指揮をとろう」と、立った。悠然と舞う名誉会長の雄姿——参加者の心には、感動が幾重にも広がった。

広布に走る婦人部の心を率直に歌った「今日も元気で」は、全国の婦人部員のなかに若々しい新鮮な歓喜を呼び起こし、またたく間に各地で歌われるようになった。リズムカルで躍動感あふれる歌は、やがて海を越え、いまや全世界のSGIの同志に親しまれている。アメリカでは「フォーエバー・センセイ」として、フランスでは「アペタ・ド・センセイ」として、そして、ブラジルでもパナマでも韓国でも——。

この歌を口ずさみながら、勇気をふるいおこしさまざまな壁を乗り越えたと語る同志は多い。広布への情熱と、師匠を求める純粋な心が歌われた「今日も元気で」の朗らかな歌声が、今日も世界中で高らかに響いている。

